

モンゴル経済概況 (2012年12月)

2013年1月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

本レポートに関する問い合わせ先：

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部 中国北アジア課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL：03-3582-5181

E-mail：ORG@jetro.go.jp

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

アンケート返送先 FAX： 03-3582-5309
e-mail：ORG@jetro.go.jp
日本貿易振興機構 海外調査部 中国北アジア課宛



● ジェトロアンケート ●

調査タイトル：モンゴル経済概況（2012年12月）

今般、ジェトロでは、標記調査を実施いたしました。報告書をお読みになった感想について、是非アンケートにご協力をお願い致します。今後の調査テーマ選定などの参考にさせていただきます。

■質問1：今回、本報告書での内容について、どのように思われましたでしょうか？（○をひとつ）

4：役に立った 3：まあ役に立った 2：あまり役に立たなかった 1：役に立たなかった

■質問2：①使用用途、②上記のように判断された理由、③その他、本報告書に関するご感想をご記入下さい。

■質問3：今後のジェトロの調査テーマについてご希望等がございましたら、ご記入願います。

■お客様の会社名等をご記入ください。（任意記入）

ご所属	<input type="checkbox"/> 企業・団体	会社・団体名
	<input type="checkbox"/> 個人	部署名

※ご提供頂いたお客様の情報については、ジェトロ個人情報保護方針 (<http://www.jetro.go.jp/privacy/>) に基づき、適正に管理運用させていただきます。また、上記のアンケートにご記載いただいた内容については、ジェトロの事業活動の評価及び業務改善、事業フォローアップのために利用いたします。

～ご協力有難うございました～

< 目 次 >

1. 政治・外交動向	1
(1) 国内	1
①【閣議】第 65 回定例閣議	1
②【閣議】第 66 回定例閣議	1
③【閣議】第 67 回定例閣議	2
④【閣議】第 68 回定例閣議	2
(2) 外交・国際	3
①【ニュージーランド】ニュージーランドの外務大臣と会談	3
②【キルギス】モンゴル・キルギス外務大臣会談	3
③【韓国】韓国の外務大臣と会談	3
2. 経済動向	4
(1) マクロ経済	4
①【インフレ・CPI】11 月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 14.4 ポイント上昇	4
②【マネーサプライ】M2は前年同期比 15.0%増	5
③【貸付残高】貸付残高は前年同期比 26.3%増、不良債権残高は同 13.0%減	7
④【金利】トゥグルク金利は前月比 0.1 ポイント上昇の 18.7%	8
⑤【財政収支】1～11 月期の財政収支は 7,067 億トゥグルクの赤字	9
(2) 貿易・投資	10
①【貿易統計】1～11 月の貿易収支は 22 億 3,920 万ドルの赤字	10
②【外貨準備高】外貨準備高は 22 億 2,640 万ドル	13
③【為替】対ドルではトゥグルク安、対円ではトゥグルク高	13
(3) 産業	14
①【モンゴルの輸送業】航空貨物輸送が前年同期比 42.5%増	14
3. 社会動向	16
(1) 社会統計	16
①【雇用統計】失業率は前年同期比 1.7 ポイント減の 6.3%	16
②【保健・医療】伝染病感染者数は前年同期比 2.3%増加	16
③【世帯収支】1 世帯当たりの平均収入は前年同期比 47.4%増	18
4. 2013 年 1～3 月の予定	19

1. 政治・外交動向

(1) 国内

①【閣議】第 65 回定例閣議

第 65 回定例閣議が 11 月 3 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係大臣に指示が出された。

・「工業化新時代」の案を作成するプロジェクトチームを編成

政府は 2012～2016 年の行動計画に基づき、工業を飛躍的に発展させるための「工業化新時代」プログラムを五つの分野で実施する。

閣議では、「工業化新時代」を支援・実行する具体的な方法について審議した。なかでも、加工業分野の発展に向けた法案、政策、およびプロジェクトリストを作成するとともに、新設・拡張が必要な工場を選定するプロジェクトチーム (PT) を編成した。

・鉄道輸送政策の実施促進を指示

2012 年春の国会で承認された「鉄道輸送政策」に基づく第 1、第 2 段階の鉄道基盤整備は、モンゴルの経済、社会の発展にとって有益であるとの立場から、一つの統括機関の下で実施すると決定。モンゴル鉄道公社に対し、鉄道基盤整備の許認可を発行し、国内外の投資家と協力して資金調達するよう指示した。また、事業の下請け企業の資金不足による工事中断を避けるべく、鉄道基盤整備の予算に下請け企業の費用負担を計上すると決定した。

②【閣議】第 66 回定例閣議

第 66 回定例閣議が 11 月 10 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係大臣に指示が出された。

・石油製品の備蓄を徹底

2008 年第 48 号国会決議では、石油製品の最低備蓄量を 12 万トン (国内需要の 2 カ月分) と定めるとともに、燃料備蓄タンクの追加建設が決定されていた。しかし、2008 年以降の各社の備蓄量は増加せず、その間に燃料輸入業者数、および燃料の国内需要のみが増加した。このため、政府は国家備蓄と輸入業者備蓄をそれぞれ 30 日分に拡大し (現状はそれぞれ 20 日分)、合計 60 日分を備蓄させると決定した。

・東部 3 県の道路建設計画を承認

ドルノド、スフバートル、ヘンティの東部 3 県を結ぶ道路建設計画のうち、ウンドゥルハーン～チョイバルサン間を 2013 年に、ウンドゥルハーン～ムンフハーン

～バローンオルト間を 2014 年に完成させること、およびバローンオルト～エルデ
ネツァガーン～ビチクト国境間の設計作業を 2013 年に完了させることが決定した。

③【閣議】第 67 回定例閣議

第 67 回定例閣議が 11 月 17 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係大臣に指示が出された。

・フシュート炭鉱を戦略的鉱山に指定

ホブド県のダルビ郡にあるフシュート炭鉱の「戦略的鉱山」への指定に関する法案作成をガンホヤグ鉱業大臣に指示した。

モンゴルの資源法では、「国家安全保障上重要であり、国家または地域の経済、社会の発展に影響する規模であり、またモンゴルの GDP の 5%以上に相当する鉱物資源の産出能力がある鉱山」を「戦略的鉱山」と定義している。フシュート炭鉱は 2011 年に 73 億トゥグルク（GDP の 4.3%）相当の鉱物資源を産出し、今後生産が拡大すれば GDP の 5%を越えると見込まれている。また、工業生産高でも「戦略的鉱山」の基本要件を満たしている。地元住民からも、「戦略的鉱山」への指定に対する要望が以前から出されていた。

・今後3年以内に全国の県庁所在地を舗装道路で接続

今後 3 年間の舗装道路整備計画が審議され、2013 年にフブスグル、ドルノド、ドルノゴビ～ザミンウード、ドンドゴビ、ウムヌゴビ、バヤンホンゴルの各県とウランバートルを舗装道路で結ぶことが決定した（2014 年にはゴビアルタイ、ザブハン、スフバートルまで、2015 年にはホブド、オブス、バヤンウルギーまで延長する計画）。なお、これらの道路建設事業は主にモンゴル国内企業に発注される。

④【閣議】第 68 回定例閣議

第 68 回定例閣議が 11 月 24 日に開催され、下記の内容が審議されるとともに関係大臣に指示が出された。

・人工衛星プロジェクトを承認

広大な国土に分散する各世帯や国民すべてに通信サービスを普及させるべく、モンゴル独自の人工衛星プロジェクトを承認した。試算では、通信衛星の打ち上げ、運用には約 3,500 億トゥグルク、観測衛星の打ち上げ、運用には約 2,800 億トゥグルクが必要とされ、この資金を国家予算、民間投資、外国からの援助、融資などから調達するとプロジェクトに盛り込んだ。同プロジェクトの実施により、モンゴルは 2015 年には独自の人工衛星を持つことになる。

(2) 外交・国際

①【ニュージーランド】ニュージーランドの外務大臣と会談

ボルド外務大臣は11月5日、第9回ASEM首脳会談出席のため訪問したラオスのビエンチャンにおいて、ニュージーランドのマレー・マッカーリー外務大臣と会談し、両国間および国連での協力について意見交換した。

会談の場でマッカーリー大臣は、両国に共通する重要な経済分野である農業分野において協力する用意があると述べるとともに、ボルド大臣をニュージーランドへ公式招待した。これに対しボルド大臣も、2013年4月29日にウランバートル市で開催される民主主義共同体の外相会談にマッカーリー大臣を公式招待した。

②【キルギス】モンゴル・キルギス外務大臣会談

ボルド外務大臣は11月12日、モンゴルを公式訪問中のキルギスのエルラン・アブディルダエフ外務大臣と会談した。

会談の冒頭でボルド外務大臣は、中央アジア地域で民主化を選んだ両国は、民主主義の価値観と立場を共有し、相互援助、自国の経験の共有などの面で強く協力していくと述べた。また、2013年4月にウランバートル市で行われる民主主義共同体第7回外相会談に、アブディルダエフ外務大臣を招待した。

③【韓国】韓国の外務大臣と会談

ボルド外務大臣は11月27日、ソウル市において韓国の金星煥（キム・ソンファン）外交通商部長官と会談した。

会談の場でボルド外務大臣は、モンゴルの第3の隣国（モンゴルは、地理的には遠くても、隣国のように近くて重要な国を「第3の隣国」と呼ぶ）である韓国とのパートナーシップを、すべての分野で安定的かつ互恵的に発展させる方針を示すとともに、国家建設の巨大プロジェクトを実施する際には、韓国の高度な技術を導入し、韓国の大手企業の投資を歓迎する意向を表明した。

（出所：モンゴル政府官房、モンゴル国会、モンゴル外務省の各ウェブサイト）

2. 経済動向

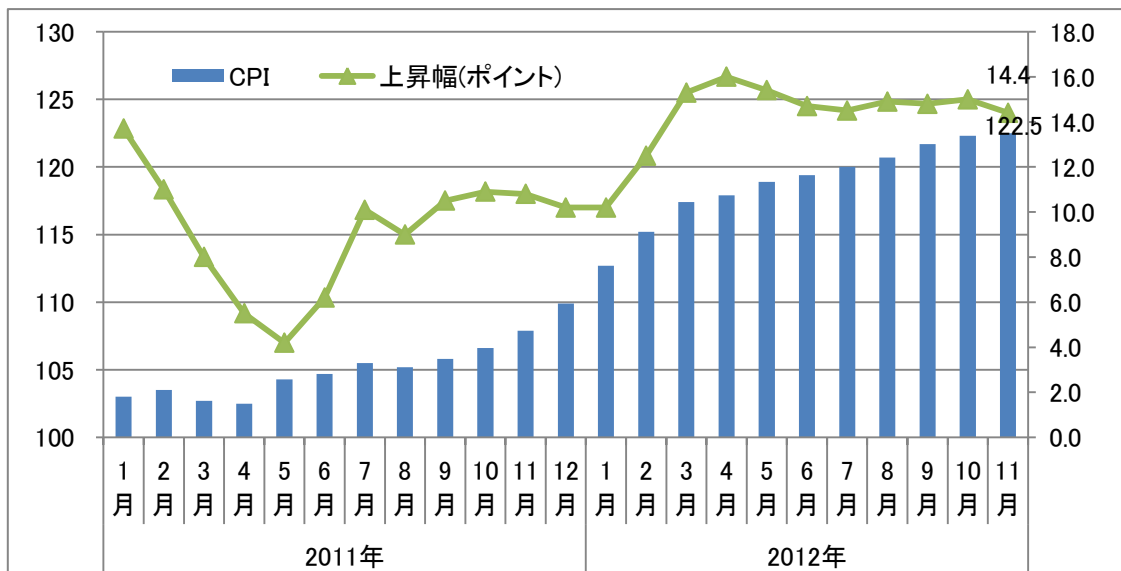
(1) マクロ経済

①【インフレ・CPI】11月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比 14.4ポイント上昇

11月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比で14.4ポイント(前月比では0.2ポイント)上昇した(図1、表1参照)。

品目別では、アルコール・タバコが53.7ポイント、レストラン・ホテルが23.1ポイント、食料品が18.8ポイント、被服および履物が16.5ポイント、教育が15.2ポイント、それぞれ前年同月比で上昇した。一方、郵便・通信は同1.5ポイント下落した(表2参照)。

(図1)消費者物価指数(CPI)の推移 (左軸:CPI、右軸:前年同月比上昇幅)



(出所)国家統計局月報

(表1)消費者物価指数(CPI)の推移

	2011年	2012年										
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
消費者物価指数(CPI)	109.9	112.7	115.2	117.4	117.9	118.9	119.4	120.0	120.7	121.7	122.3	122.5
前月比	2.0	2.8	2.5	2.2	0.5	1.0	0.5	0.6	0.7	1.0	0.6	0.2
前年同月比	10.2	10.2	12.5	15.3	16.0	15.4	14.7	14.5	14.9	14.8	15.0	14.4

(注1)消費者物価指数(CPI)は2011年初を100とする。

(注2)前月比、前年同月比は上昇幅(ポイント)。

(出所)国家統計局月報

(表2)品目別の消費者物価指数(CPI)上昇幅 (単位:ポイント)

品目名	前年同月比		前月比	
	10月	11月	10月	11月
食料品	19.8	18.8	Δ2.2	Δ0.1
アルコール・タバコ	53.3	53.7	3.3	0.5
被服および履物	17.1	16.5	2.1	1.5
住居・水道	13.6	11.8	4.6	Δ0.8
家具・日用品	9.7	9.9	0.9	0.7
保健医療	8.9	9.1	1.7	0.2
交通・輸送	6.0	5.6	0.8	Δ0.2
郵便・通信	Δ1.5	Δ1.5	0.0	0.0
娯楽	2.5	3.2	0.5	0.7
教育	15.2	15.2	0.0	0.0
レストラン・ホテル	23.8	23.1	0.4	0.3
その他の商品・サービス	7.8	7.6	0.8	0.2

(出所)国家統計局月報

②【マネーサプライ】M2は前年同期比 15.0%増

11月末時点の通貨供給量(M2)は前年同期比 15.0%増(前月比 1.4%減)の7兆332億トウグルクだった(表3、図2参照)。

(表3)マネーサプライの推移 (単位:億トウグルク、%)

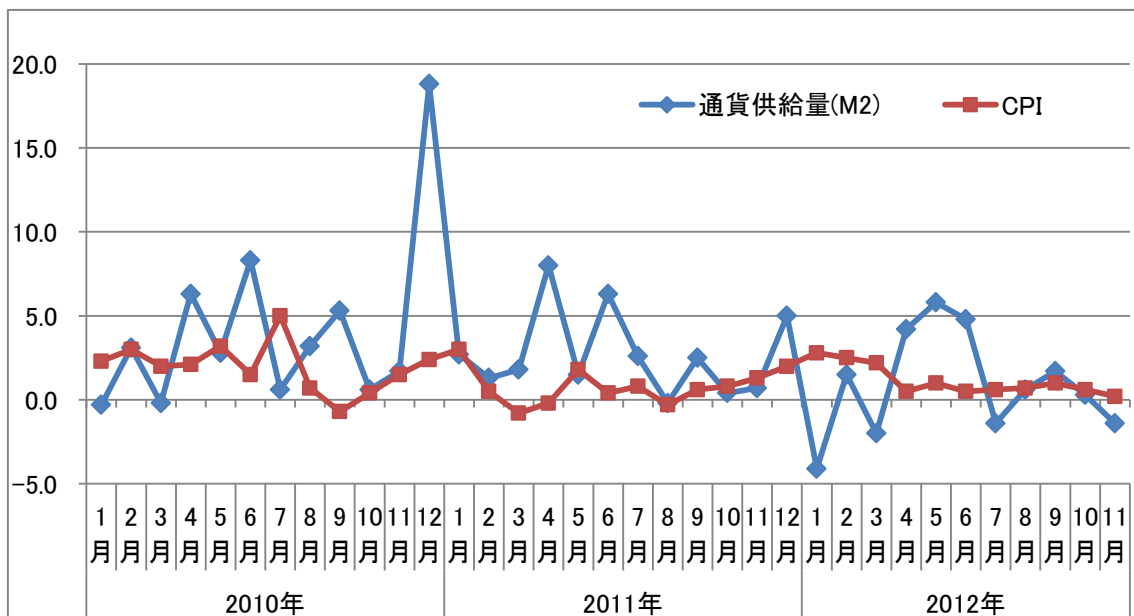
	2011年11月末	2012年10月末	2012年11月末
通貨供給量(M2)	61,132	71,326	70,332
前年同期比	55.2	17.3	15.0
前月比	0.6	0.3	Δ1.4
総預金	38,145	46,623	45,970
前年同期比	60.2	24.5	20.5
前月比	1.9	1.8	Δ1.4
トウグルク預金	28,096	31,750	31,647
前年同期比	60.6	11.7	12.6
前月比	Δ1.2	3.0	Δ0.3
外貨預金	10,049	14,873	14,324
前年同期比	59.1	65.0	42.5
前月比	11.5	Δ0.6	Δ3.7

(出所)国家統計局月報

なお、総預金は前年同期比 20.5%増（前月比 1.4%減）の 4 兆 5,970 億トウグルク、
 トウグルク預金は前年同期比 12.6%増（前月比 0.3%減）の 3 兆 1,647 億トウグルク、
 外貨預金は前年同期比 42.5%増（前月比 3.7%減）の 1 兆 4,324 億トウグルクだった。

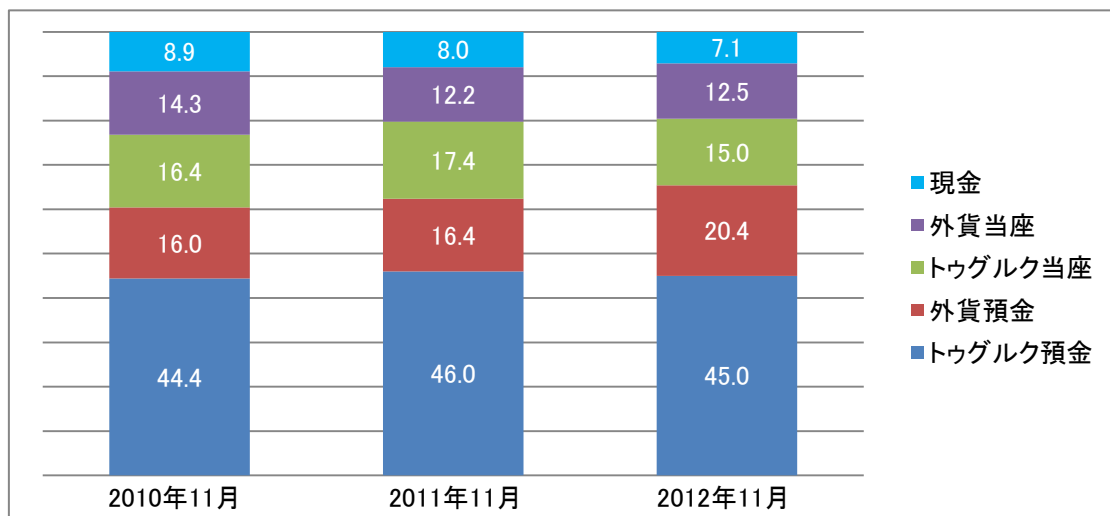
マネーサプライの構成比は、トウグルク預金が 45.0%、外貨預金が 20.4%、トウグルク当座が 15.0%、外貨当座が 12.5%、現金が 7.1%だった。前年同期比で、外貨預金は 4.0 ポイント、外貨当座は 0.3 ポイント増加し、トウグルク預金は 1.0 ポイント、トウグルク当座は 2.4 ポイント、現金は 0.9 ポイント減少した（図 3 参照）。

(図2) 貨幣供給量(M2)と消費者物価指数(CPI)の前月比伸び率 (単位: %)



(出所) 国家統計局月報

(図3) マネーサプライの構成比 (単位: %)



(出所) 国家統計局月報

③【貸付残高】貸付残高は前年同期比 26.3%増、不良債権残高は同 13.0%減

11 月末時点の貸付残高は前年同期比 26.3%増（前月比 0.2%増）の 6 兆 8,678 億トウグルクだった（表 4 参照）。

貸付先ごとにみると、民間セクターに 3 兆 7,156 億トウグルク（構成比 54.1%）、個人に 3 兆 829 億トウグルク（同 44.9%）、公的機関に 487 億トウグルク（同 0.7%）、金融機関に 98 億トウグルク（同 0.1%）、その他の機関に 108 億トウグルク（同 0.2%）がそれぞれ貸し出されている。なお、企業、個人向け融資の 67.8%はハーン銀行、ゴロムト銀行、貿易開発銀行の 3 行が占めている。

不良債権残高は、前年同期比 13.0%減（前月比 2.5%減）の 2,985 億トウグルクだった（図 4 参照）。不良債権比率は 4.3%と、前年同期比で 2.0 ポイント、前月比では 0.2 ポイント減少した。

期限超過債権残高は前年同期比 2.1 倍（前月比 11.5%増）の 1,477 億トウグルクだった。期限超過債権比率は 2.2%と、前年同期比で 0.9 ポイント、前月比では 0.3 ポイント増加した。

なお、市中銀行の総資産は前年同期比 25.5%増（前月比 0.7 減）の 9 兆 9,169 億トウグルクだった。

（表4）貸付残高の推移

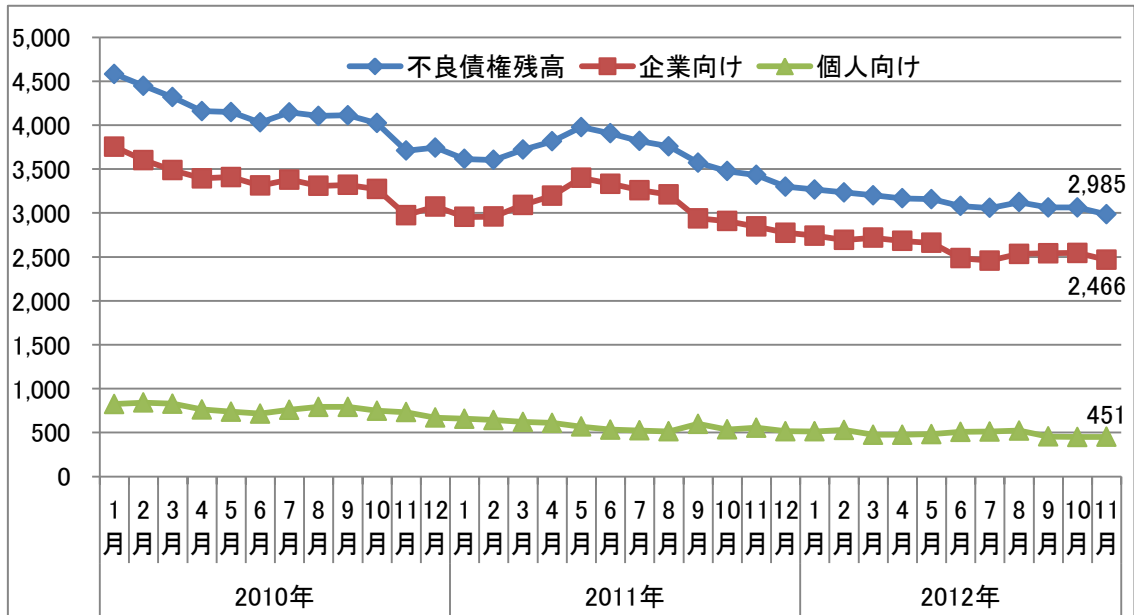
（単位：億トウグルク、%）

	2011 年 11 月	2012 年 10 月	2012 年 11 月
貸付残高	54,387	68,554	68,678
前年同期比	74.7	31.3	26.3
前月比	4.2	Δ0.2	0.2
不良債権残高	3,432	3,062	2,985
前年同期比	Δ7.5	Δ11.9	Δ13.0
前月比	Δ1.3	0.0	Δ2.5
期限超過債権残高	715	1,325	1,477
前年同期比	Δ20.8	86.6	106.5
前月比	0.7	13.2	11.5
不良債権比率	6.3	4.5	4.3
期限超過債権比率	1.3	1.9	2.2

（出所）国家統計局月報

(図4)不良債権残高の推移

(単位:億トゥグルク)



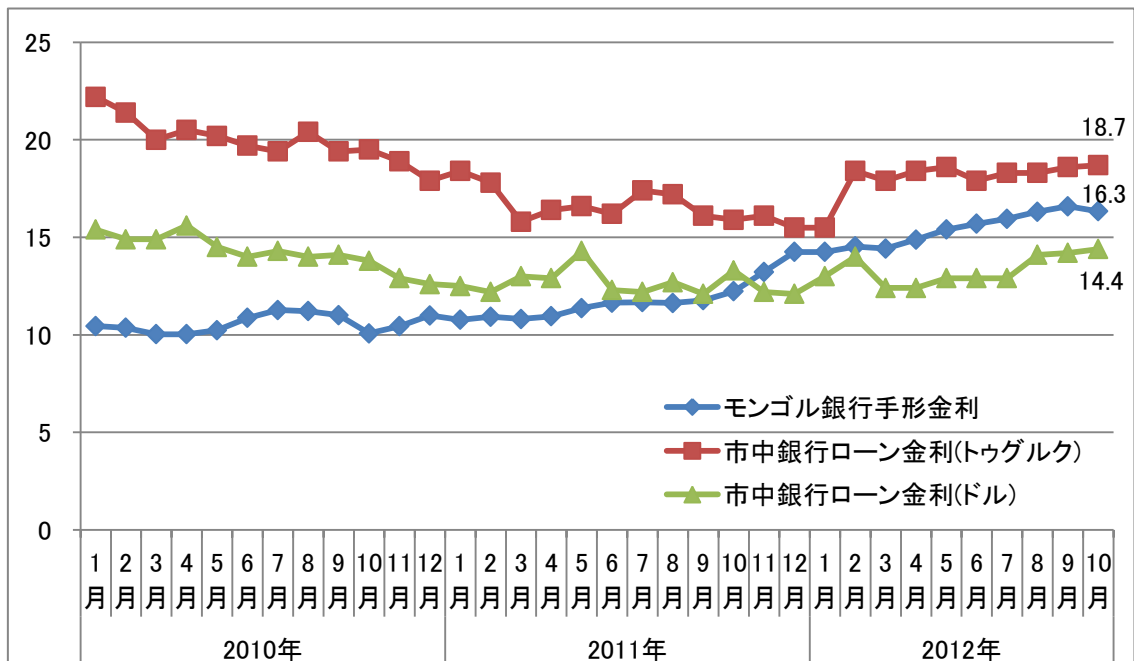
(出所)国家統計局月報

④【金利】トゥグルク金利は前月比0.1ポイント上昇の18.7%

10月末時点の銀行ローン金利(年利)は、トゥグルクが前月比0.1ポイント上昇(前年同月比0.8ポイント低下)の18.7%、ドルは前月比0.2ポイント上昇(前年同月比0.6ポイント上昇)の14.4%だった(図5参照)。

(図5)銀行ローン金利の推移(年利)

(単位:%)



(出所)国家統計局月報

⑤【財政収支】1～11月期の財政収支は7,067億トウグルクの赤字

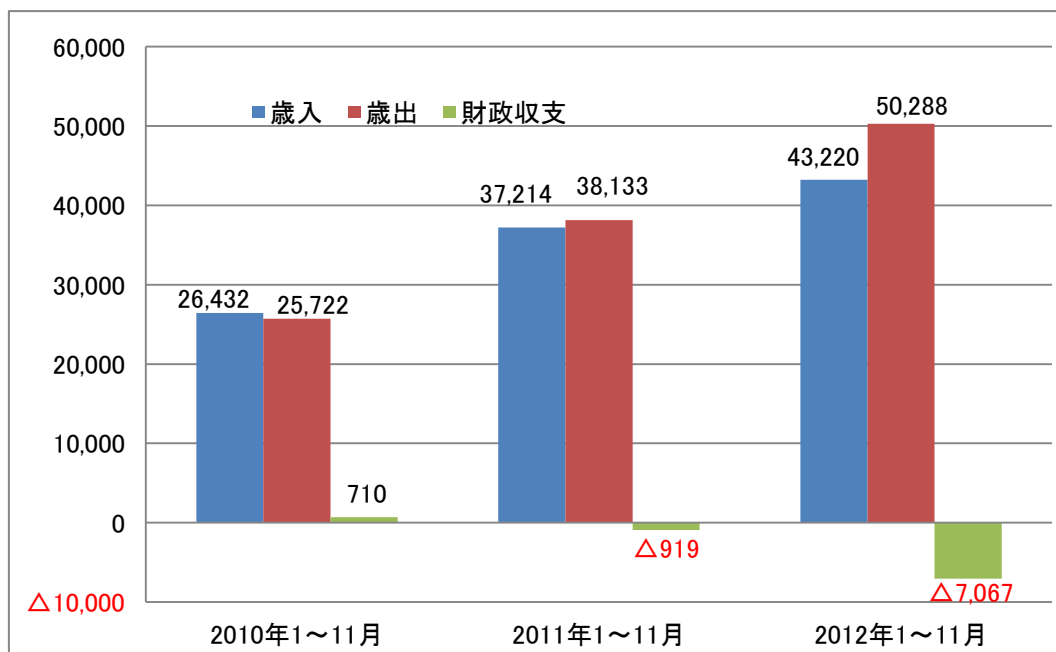
1～11月期の歳入および外国からの援助は前年同期比16.1%増の4兆3,220億トウグルク、歳出および返済は同31.9%増の5兆288億トウグルク、財政収支は7,067億トウグルクの赤字だった（図6参照）。

歳入および外国からの援助の内訳をみると、税金が88.2%（前年同期比2.8ポイント増）、税以外の収入が10.3%（同0.2ポイント減）、財政安定化基金からの収入が0.6%（同3.0ポイント減）、援助による収入が0.6%（同0.5ポイント増）、資産からの収入が0.3%（同0.1ポイント減）を占めた。

歳出および返済の内訳をみると、経常支出が76.1%（同3.3ポイント増）、資本支出が23.0%（同3.3ポイント増）、返済が0.9%（同6.6ポイント減）を占めた。

（図6）財政収支の状況

（単位：億トウグルク）



（出所）国家統計局月報

(2)貿易・投資

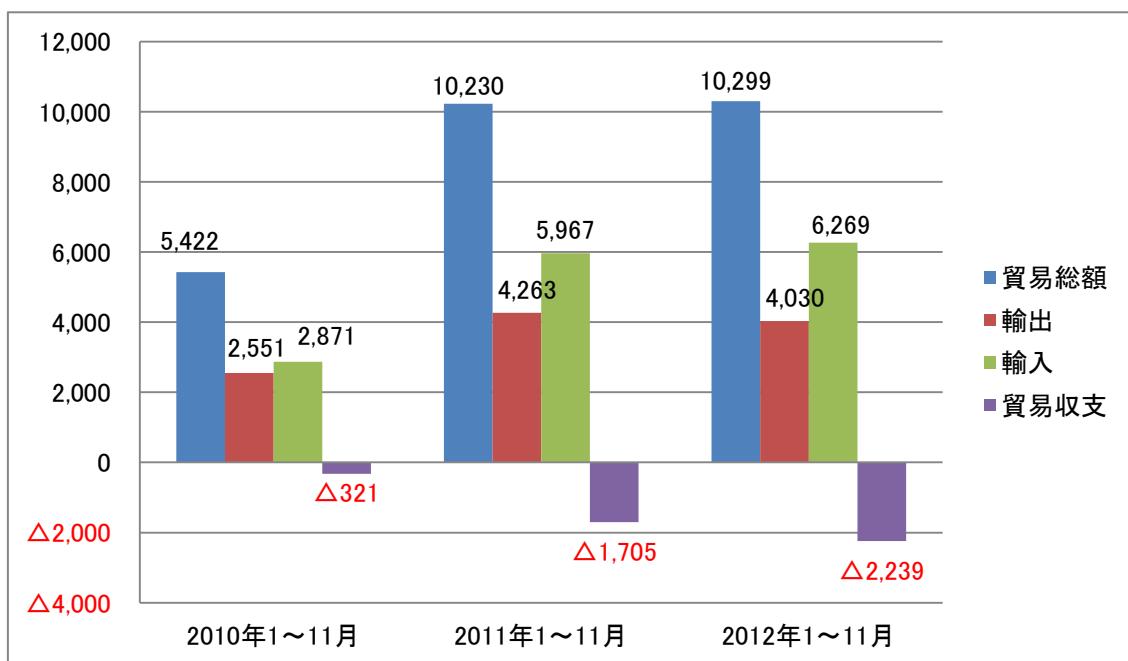
①【貿易統計】1～11月の貿易収支は22億3,920万ドルの赤字

1～11月におけるモンゴルの貿易総額は前年同期比0.7%増の102億9,890万ドル、うち輸出は同5.5%減の40億2,990万ドル、輸入は同5.1%増の62億6,910万ドルだった。貿易収支は22億3,920万ドルの赤字となった（図7参照）。

貿易相手先は137カ国・地域にのぼった。シェアを見ると、中国が56.2%（前年同期比2.7ポイント減）、ロシアが14.8%（同2.5ポイント増）、その他が29.0%（同0.2ポイント増）を占めた。

(図7)貿易額および貿易収支の推移

(単位:100万ドル)



(出所)国家統計局月報

<輸出の92.8%が中国向け>

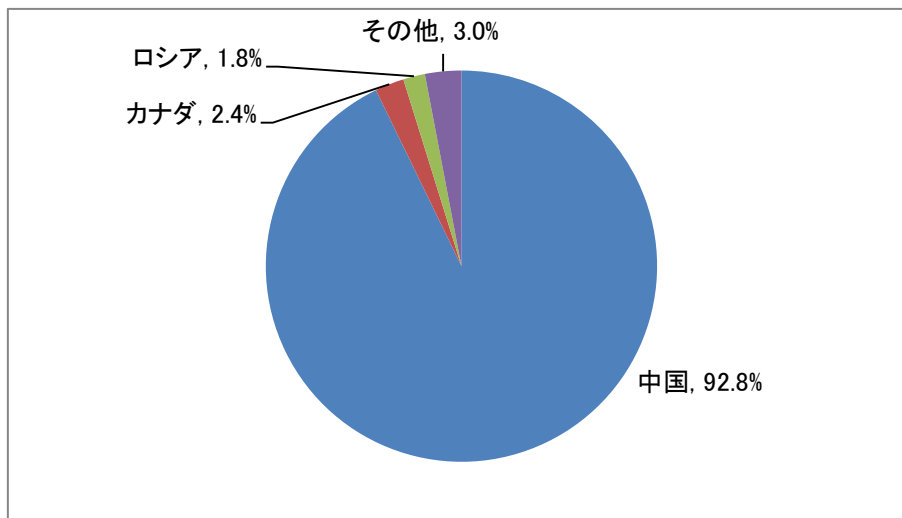
輸出相手先は55カ国・地域にのぼる。輸出総額に占めるシェアは、中国が92.8%、カナダが2.4%、ロシアが1.8%、その他が3.0%だった（図8参照）。

主要輸出品目は、鉱物製品、織物・織物製品、宝石・貴金属などで、これら3品目が輸出総額の97.5%を占める（表5参照）。

このうち鉱物製品の内訳をみると、石炭が43.7%（前年同期比2.0ポイント減）、粗銅が19.1%（同2.0ポイント減）、鉄鉱石が11.7%（同2.3ポイント増）、原油が7.6%（同2.3ポイント増）、亜鉛鉱石が2.9%（同0.2ポイント減）、蛍石が2.4%（同0.3ポイント増）、未精錬または半精錬の金が2.5%（同0.1ポイント増）、その他の製品が10.1%となっている。なお、数量ベースの輸出量は表6に示した通りである。

(図8) 1～11月の輸出相手先のシェア

(単位: %)



(出所) 国家統計局月報

(表5) 輸出総額に占める品目別のシェア

(単位: %)

	2010年1～11月	2011年1～11月	2012年1～11月
鉱物製品	80.2	88.8	89.3
織物・織物製品	8.1	5.4	5.7
宝石・貴金属	6.5	2.5	2.5
毛皮・革製品	1.2	1.1	0.6
その他	4.0	2.2	1.9

(出所) 国家統計局月報

(表6) 鉱物製品の輸出量(数量ベース)

(単位: 1,000トン、原油のみ 1,000 バレル)

	2010年1～11月	2011年1～11月	2012年1～11月
石炭	14,622.3	18,467.4	18,868.2
鉄鉱石	3,123.5	5,085.6	5,743.3
原油	1,903.3	2,265.7	3,230.7
粗銅	518.0	524.9	527.2
亜鉛鉱石	100.0	110.5	125.9
金(未精錬・半精錬)	4.7	3.2	2.3

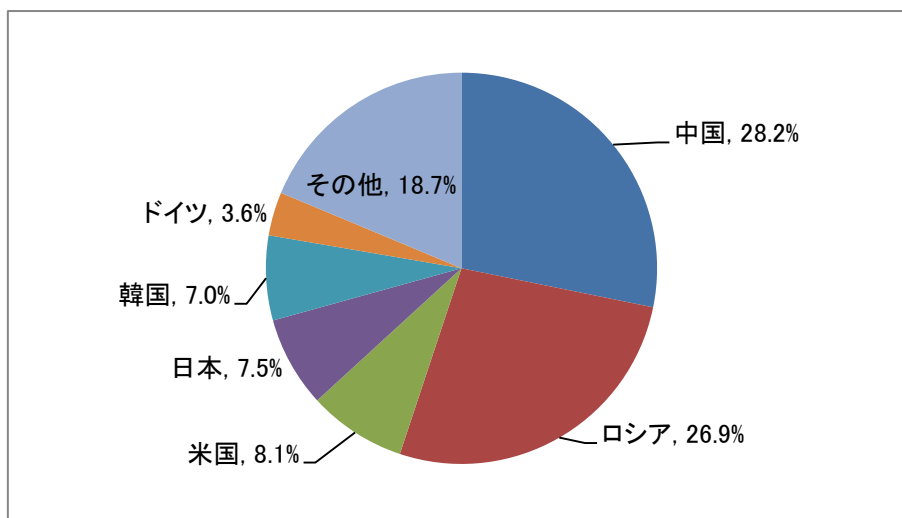
(出所) 国家統計局月報

＜輸入の過半数を中国、ロシアに依存＞

輸入相手先は134カ国・地域にのぼる。輸入総額に占めるシェアは、中国が28.2%、ロシアが26.9%、米国が8.1%、日本が7.5%、韓国が7.0%、ドイツが3.6%、その他が18.7%だった（図9参照）。

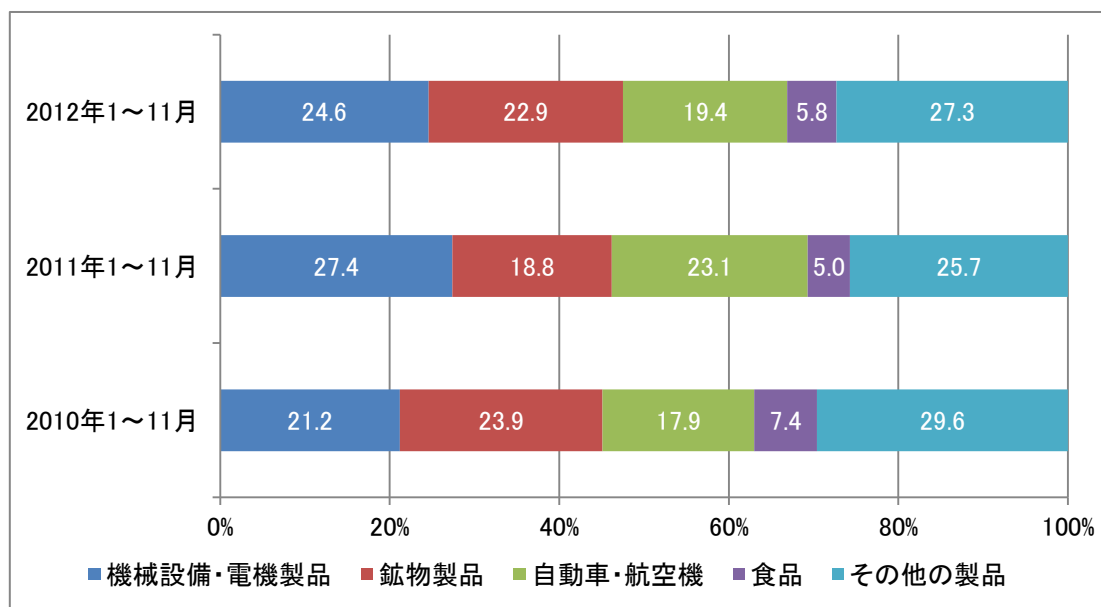
輸入総額に占める品目別のシェアは、機械設備・電機製品および同部品が24.6%、鉱物製品が22.9%、自動車・航空機および同部品が19.4%、食品が5.8%、その他の製品が27.3%だった。（図10参照）。

（図9）1～11月期の輸入相手先のシェア （単位：%）



（出所）国家統計局月報

（図10）輸入総額に占める品目別のシェア （単位：%）

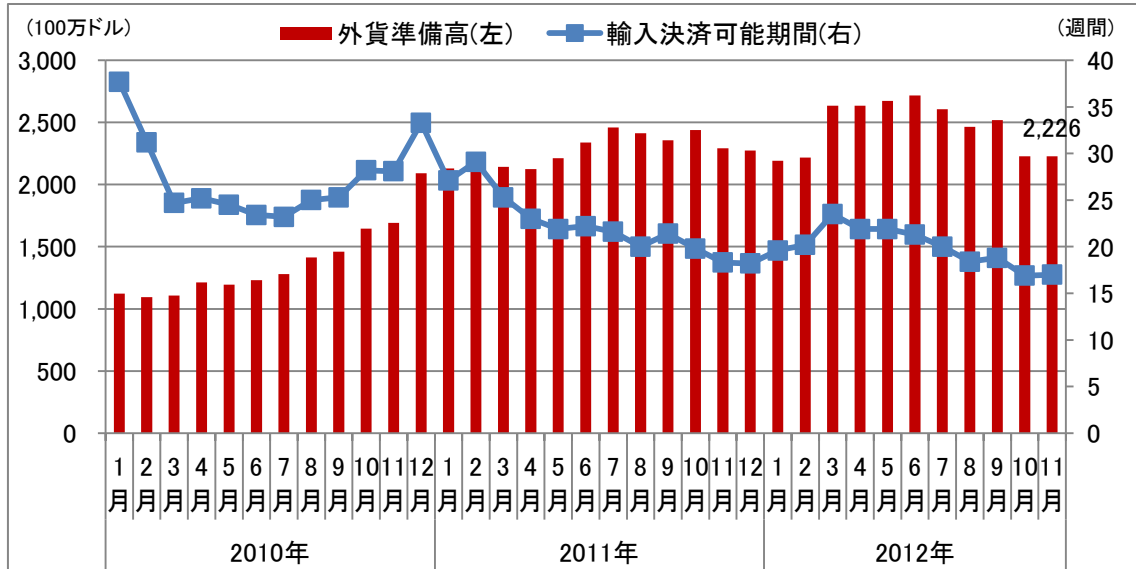


（出所）国家統計局月報

②【外貨準備高】外貨準備高は 22 億 2,640 万ドル

11 月末時点の外貨準備高は、前年同期比 6,540 万ドル減、前月比 90 万ドル減の 22 億 2,640 万ドルとなった。これは、モンゴルの輸入決済の 4.3 カ月分 (17.0 週間分) の金額にあたる (図 11 参照)。

(図 11) 外貨準備高の推移 (左軸: 外貨準備高、右軸: 決済可能期間)

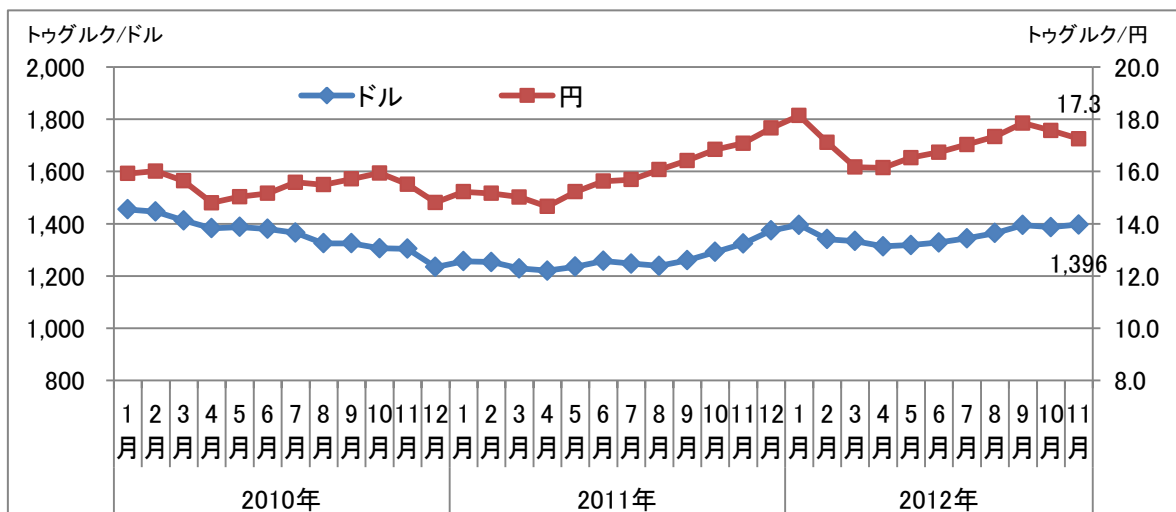


(出所) 国家統計局月報

③【為替】対ドルではトゥグルク安、対円ではトゥグルク高

11 月の期中平均レートは、対ドルは 1,396 トゥグルク、対円は 17.3 トゥグルクだった。前月に比べ、対ドルではトゥグルク安、対円ではトゥグルク高となった (図 12 参照)。

(図 12) 為替レートの推移 (左軸: 対ドル、右軸: 対円)



(出所) モンゴル銀行

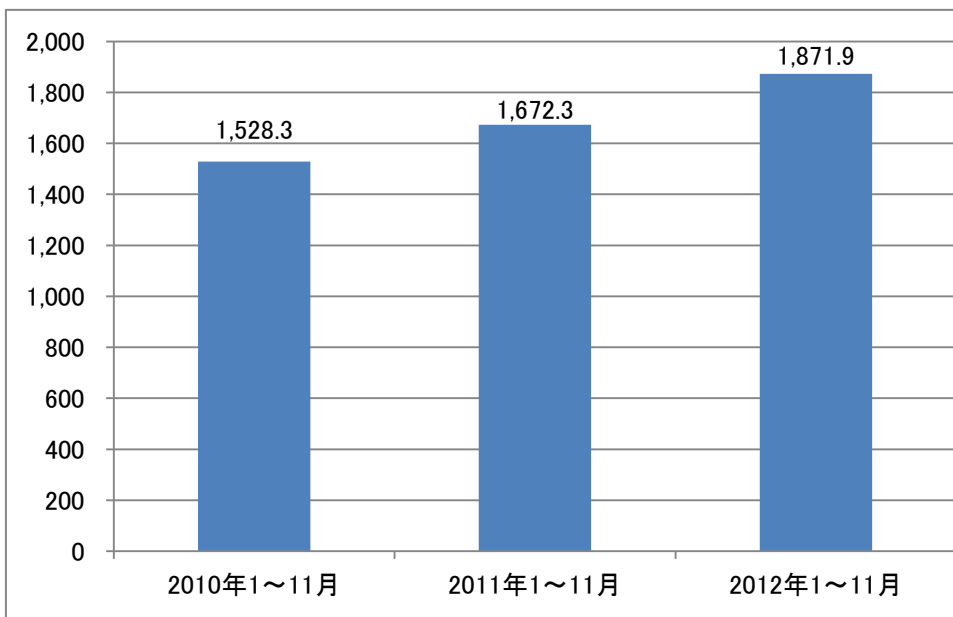
(3) 産業

①【モンゴルの輸送業】航空貨物輸送が前年同期比 42.5%増

1～11月の鉄道貨物輸送量は前年同期比 11.9%増の 1,871 万 9,300 トン、航空貨物輸送は同 42.5%増の 3,677 トンだった。(図 13、14 参照)。

(図 13) 鉄道貨物輸送量

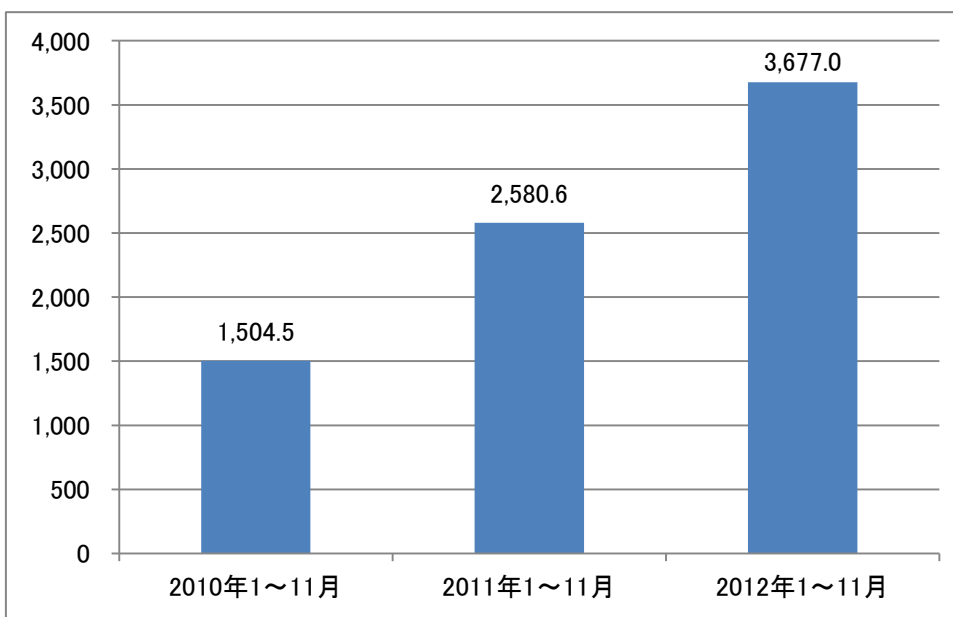
(単位:万トン)



(出所) 国家統計局月報

(図 14) 航空貨物輸送量

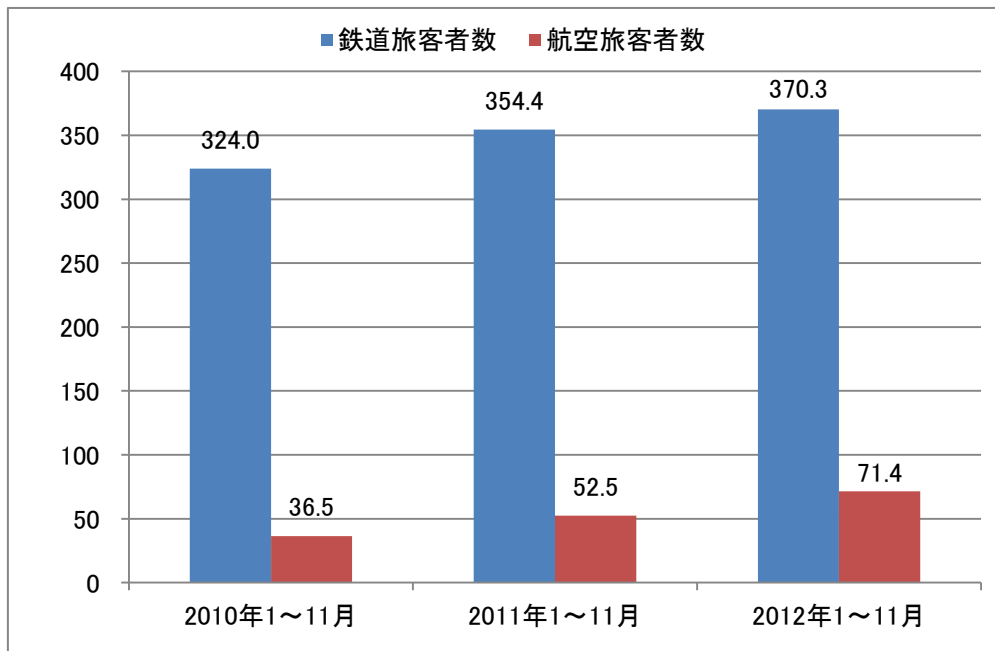
(単位:トン)



(出所) 国家統計局月報

同期間における鉄道旅客者数は同 4.5%増の延べ 370 万 2,600 人、航空旅客者数は同 36.0%増の延べ 71 万 3,500 人だった (図 15 参照)

(図 15) 1～11 月の鉄道および航空旅客数 (単位:万人)



(出所) 国家統計局月報

3. 社会動向

(1) 社会統計

①【雇用統計】失業率は前年同期比 1.7 ポイント減の 6.3%

第 3 四半期の雇用統計によると、労働力人口（15 歳以上）は前年同期比 3.8% 増の 119 万 1,000 人、うち男性が 62 万 7,400 人（構成比 52.6%）、女性が 56 万 3,100 人（同 47.3%）となった（表 7 参照）。

失業者数は 7 万 5,300 人、うち男性が 3 万 8,000 人（同 50.5%）、女性が 3 万 7,300 人（同 49.5%）で、失業率は同 1.7 ポイント減の 6.3% だった。

(表7) モンゴルの労働人口

(単位: 万人)

	2010 年 第 3 四半期	2011 年 第 3 四半期	2012 年 第 3 四半期
労働力人口	119.3	114.7	119.1
うち男性	63.7	60.1	62.7
うち女性	55.6	54.6	56.3
就業者	109.0	105.5	111.6
失業者	10.3	9.2	7.5

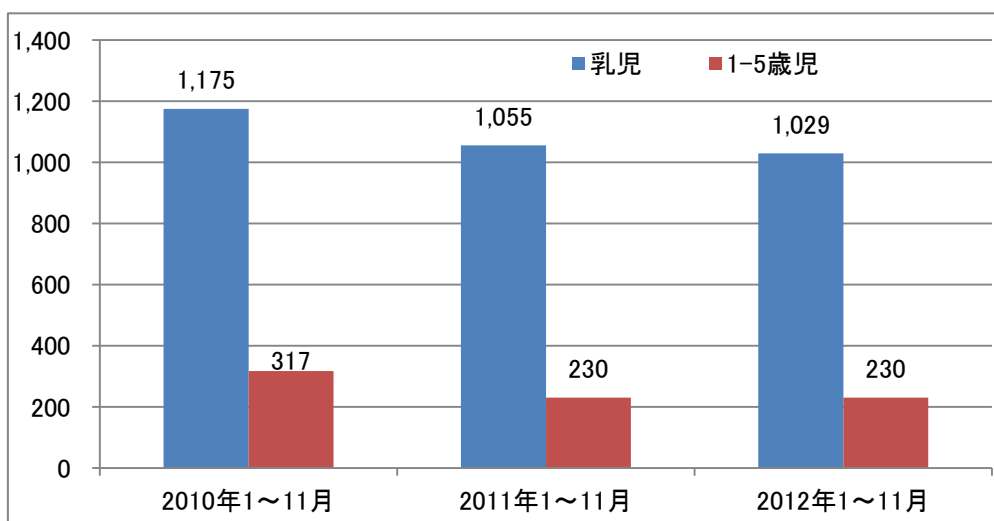
(出所) 国家統計局月報

②【保健・医療】伝染病感染者数は前年同期比 2.3% 増加

1～11 月期の乳児死亡者数は前年同期比 2.5% 減の 1,029 人、1～5 歳児の死亡者数は前年同期と変わらず 230 人だった（図 16 参照）。

(図 16) 乳児および 1-5 歳児の死亡件数

(単位: 人)



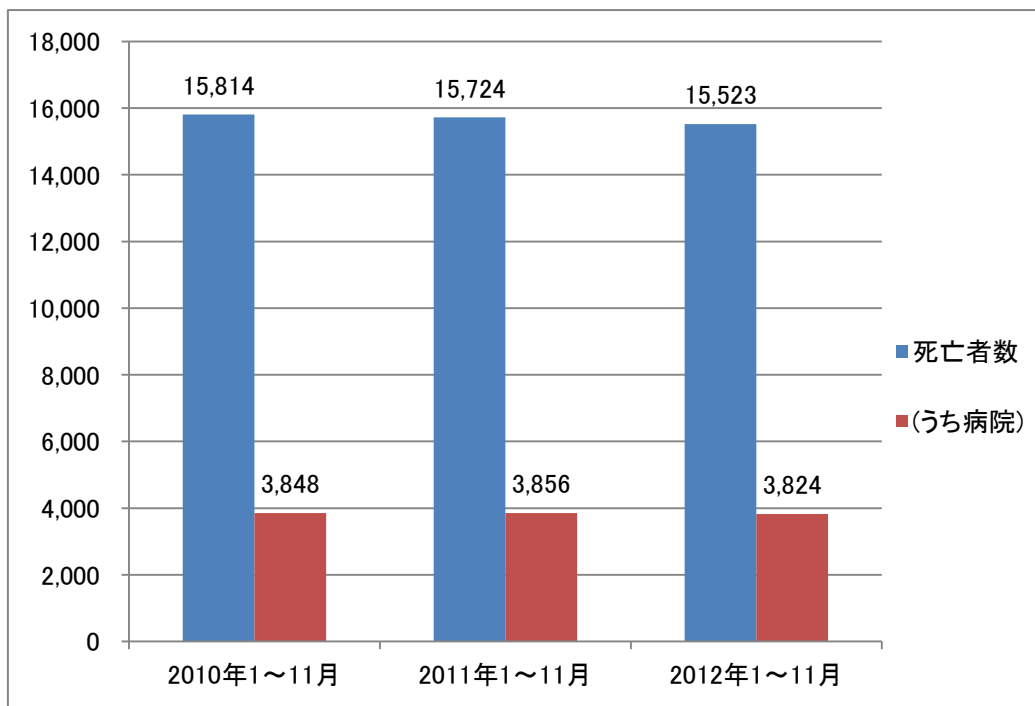
(出所) 国家統計局月報

同期間における伝染病感染者数は、前年同期比 2.3%増の 3 万 9,301 人だった。このうち、流行性耳下腺炎（おたふく風邪）が同 9.3 倍の 7,408 人、ウイルス性肝炎が同 49.4%減の 6,228 人、梅毒が同 11.8%増の 466 人、水痘（水ぼうそう）が同 12.7%減の 358 人、赤痢（せきり）が同 3.9%減の 79 人、結核が同 1.8%減の 68 人だった。

全国の死亡者総数は同 1.3%減の 1 万 5,523 人だった。このうち、病院での死亡者数は同 0.8%減の 3,824 人と全体の 24.6%を占めた（図 17 参照）。なお、同期間に病院で入院あるいは治療を受けた患者数は同 3.8%増の 65 万 2,800 人であった。

(図 17) 1～11 月の全国の死亡者数

(単位:人)

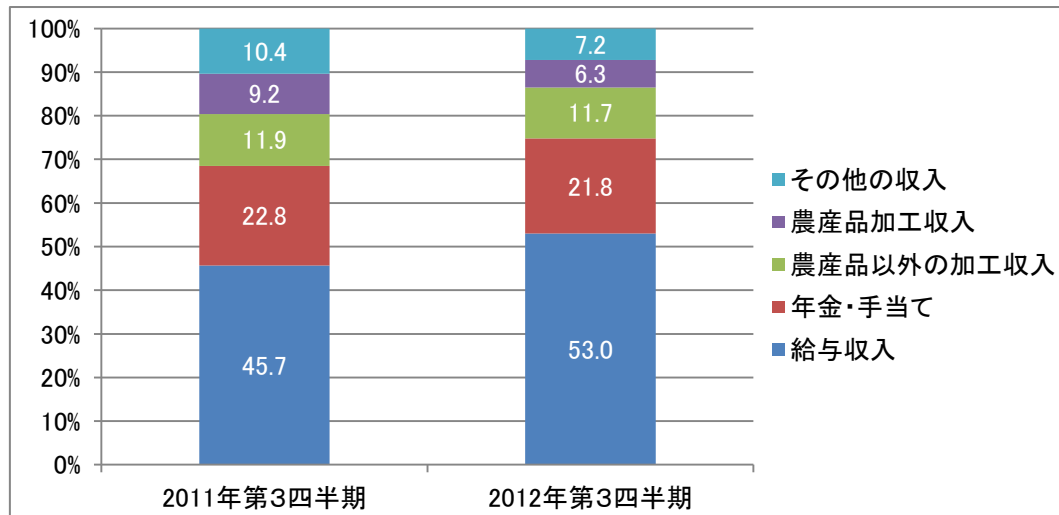


(出所) 国家統計局月報

③【世帯収支】1世帯当たりの平均収入は前年同期比 47.4%増

第3四半期の1世帯当たりの平均収入は前年同期比 47.4%増の 75万 6,900 トウグルクだった。構成比をみると、給与収入が同 7.3 ポイント増の 53.0%、年金・手当てが同 1.0 ポイント減の 21.8%、農産品以外の加工収入が同 0.2 ポイント減の 11.7%、農産品加工収入が同 2.9 ポイント減の 6.3%、その他の収入が同 3.2 ポイント減の 7.2% だった（図 18 参照）。

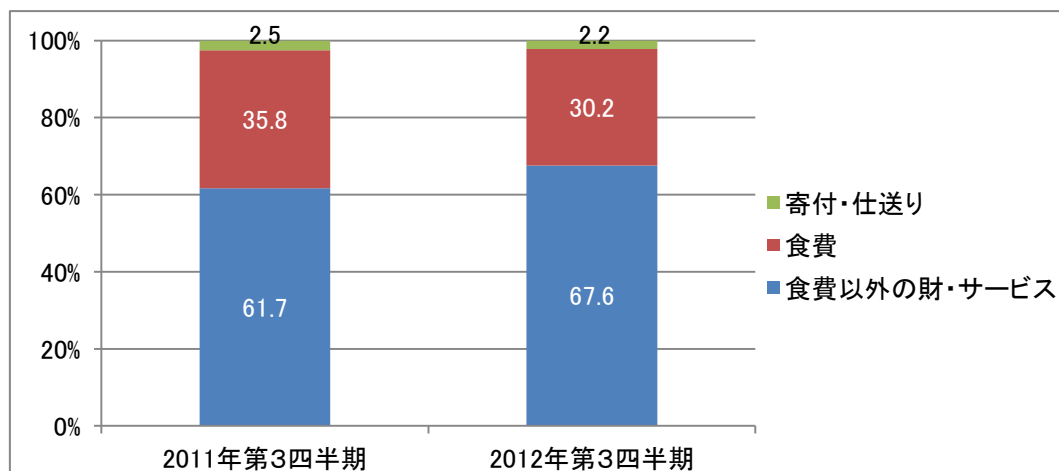
(図 18) 1世帯当たりの月平均収入の構成比 (単位: %)



(出所) 国家統計局月報

同時期の1世帯当たりの平均支出は前年同期比 31.4%増の 65万 9,600 トウグルクだった。構成比をみると、食費以外の財・サービスが同 5.9 ポイント増の 67.6%、食費が同 5.6 ポイント減の 30.2%、寄付・仕送りが同 0.3 ポイント減の 2.2%だった（図 19 参照）。

(図 19) 1世帯当たりの月平均支出の構成比 (単位: %)



(出所) 国家統計局月報

4. 2013年1～3月の予定

- 2月11日 ツァガンサル（旧正月）
- 2月21～22日 COAL MONGOILA 2013 国際石炭フォーラム
（於・SS-Convention Center、ウランバートル）
- 2月27～28日 リスクマネジメントセミナー
（於・Blue Sky Tower、ウランバートル）
- 3月27～29日 Mine Tech Expo 2013
（於・Misheel Expo、ウランバートル）